

富岡市内出土品展

よみがえる! とみおか

2018
2.9金~18日

AM9:30~PM5:00 入場無料 ※13日(木)は休館日

富岡市立美術博物館 市民ギャラリー及び創作室

遺跡説明会10日(土)・12日(月)・17日(土)
PM 2:00~(創作室)

10日(土)

下高田押出遺跡 (毛野考古学研究所)
富岡坪ノ内遺跡 (シン技術コンサル)

12日(月)

史跡旧富岡製糸場/今年度の発掘調査
史跡旧富岡製糸場/乾燥場(繭扱場)・社宅84(旧候門所)
史跡旧富岡製糸場/西置繭所・社宅76

17日(土)

大牛中原遺跡の縄文時代
史跡旧富岡製糸場の発掘調査



し せききゆうとみおかせい し じょう
史跡旧富岡製糸場

平成29年度の発掘調査は、西置繭所・社宅76・乾燥場（繭扱場）・社宅84（旧候門所）などで行われています。

展示ではそれぞれの調査地点の成果や、主な出土品を紹介します。

■**国宝西置繭所**

木骨煉瓦造で2階建ての繭倉庫です。明治5年の操業開始時に建てられました。建物内部を発掘調査し、建物を建てる時の土地造成の痕跡を確認しています。また、床下の地面には様々な「モノ」がありました。たまたま床下に落ちたのか、意図的に置き去りにされたものか、現在検討中です。



床下地面の調査

■**社宅76**

製糸場で働く従業員の社宅として使われた建物のひとつです。大正時代に建てられたと考えられています。床下を発掘調査し、礎石や束石などを確認しています。床下には様々な「モノ」が落ちていました。また、明治5年の操業開始時には、この位置に工女寄宿所が建てられていました。その基礎地業の可能性のある石の列を確認しました。明治期の食器類も出土しています。



建物内部の調査

■**社宅84(旧候門所)**

明治5年の操業開始時には現在の正門の内側にあり、人の出入りを管理した建物でした。昭和10年代の後半頃に現在地に曳家され社宅として利用されました。調査では、曳家移転後の基礎の実態を把握することができました。



建物周囲の調査

■**乾燥場(繭扱場)**

繭を乾燥させるための施設です。様々な増改築を経て現在の建物配置になっています。発掘調査したのは主に南棟の内部で、ここでは煉瓦で造られた施設の一部を確認しています。古い時代の乾燥施設の可能性があります。



見つかった煉瓦施設

■**整理作業**

発掘調査では様々な記録を作成します。主に写真や測量図面などで、出土品とともにこれらを整理し、調査成果としてとりまとめます。今回はこれまでの整理作業の成果のひとつとして、「水溜」という貯水施設を紹介します。水溜は現在は埋められていますが、製糸場で使う「水」に関わる重要な施設でした。発掘と整理作業によって、その一端がわかりはじめています。

下高田押出遺跡

高田川左岸、明戸橋の北に位置しています。平成29年7月から9月にかけて発掘調査を実施しました。平安時代以降の水田跡、明治時代の瓦を焼いた窯跡2基、不良な瓦や壊した窯の壁材を廃棄した場所3基、窯の材料である粘土を採った痕跡2ヶ所を確認しました。

■近現代

検出された2基の瓦窯跡のうち1基は、上部構造は失われていたものの焚口・4条の畦・峠と呼ばれる下部構造がよく残っており「達磨窯」であることがわかりました。



瓦を焼いた窯跡(中央に峠と4条の畦)

壁や畦は、瓦と植物を混ぜた粘土を交互に積み上げていました。窯の中央部分の峠と呼ばれる部分は、地面を三角形に掘り残し、外面に粘土を貼り付け、頂部には壁や畦と同様に瓦と粘土を交互に積み上げていました。峠の材料として使われていた瓦の中に火を受けた粘土が付着したものがあり、この窯よりも古い窯の材料を再利用していたと考えられます。焚口・燃焼部の底・峠の斜面は補修をしている様子も認められました。



達磨窯の概略図
(有)毛野考古学研究所 日沖剛史

富岡坪之内遺跡

高田川右岸、上州富岡駅の北側に位置しています。平成29年5月から9月にかけて約1000㎡を発掘調査し、奈良・平安時代の集落跡、中近世の屋敷を囲む堀跡、掘立柱建物跡を確認しました。

■古代

1200年前の竪穴住居跡1軒を確認しました。北にカマドがつき、北西隅が張り出している特異な形をしていました。土師器の甕や坏、須恵器の甕や壺が出土しました。



北西が張り出している竪穴住居跡(南から)

■中近世

屋敷の周りに掘られた鎌倉～室町時代の堀跡を5条確認しました。大きなもので幅約3m、深さ約2mあり、屋敷への出入り口となる土橋を確認しました。堀の中から、常滑焼の甕・鉢、軟質陶器の内耳鍋・鉢、かわらけ、渡来銭が出土し、特に輸入陶磁器である青磁碗・皿の破片が10点出土しました。



大きな堀の跡
(株)シン技術コンサル 吉澤 学

な の か い ち お ざ わ に し い せ き

七日市小沢西遺跡

高田川右岸に位置しています。平成28年12月に発掘調査を実施し、縄文時代の竪穴住居跡を確認しました。

■縄文時代

約4000年前、縄文時代後期初頭の住居跡を1軒調査しました。住居内に径約1.3m、深さ約60cmの炉があり、中から縄文土器の深鉢片が出土しました。

な の か い ち こ ふ ん ぐ ん

七日市古墳群

鍋川左岸に位置しています。平成29年10月に試掘確認調査を実施しました。

■古墳時代

今から約1500年前から1400年前の古墳時代後期に作られ、現在約20基が残っています。このうち、七日市16号古墳の調査を行い、形象埴輪の破片が出土しました。

お お う し な か は ら い せ き

大牛中原遺跡

富岡市妙義町大牛に位置しています。平成25年度から27年度にかけて発掘調査を実施し、縄文時代、弥生時代後期末から古墳時代初頭、平安時代の竪穴住居跡、平安時代の木棺墓などを確認しました。

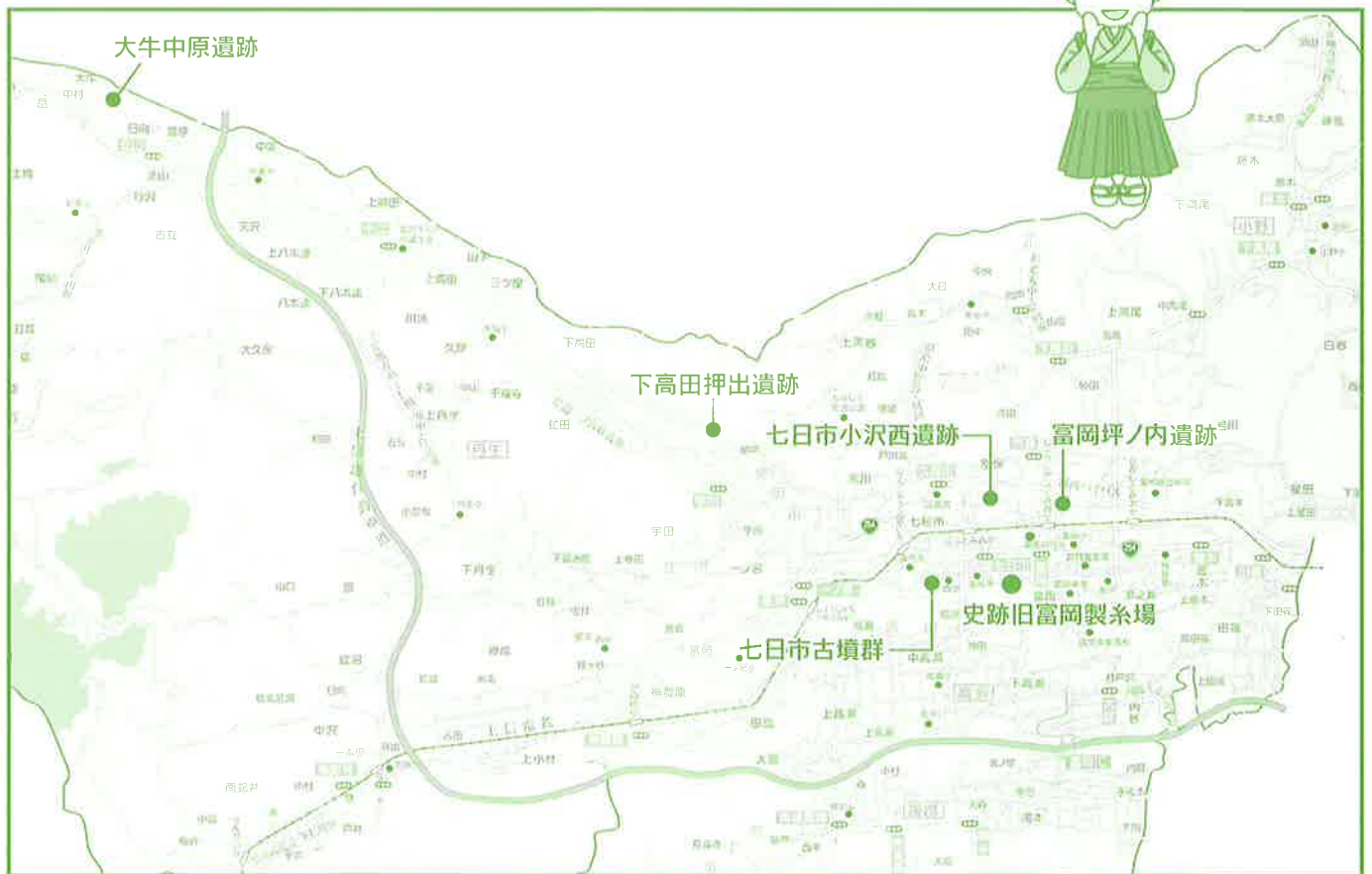
■縄文時代

大牛中原遺跡の縄文時代集落は約6000年前の前期中葉に出現し、約5500年前の前期後半に最盛期を迎えました。前期後半の60号住居跡には、総重量500kg超の大量の土器が廃棄されていました。



60号住居跡

遺跡の位置



富岡市教育委員会 文化財保護課

TEL 0274-62-1511(内線2134)